

医師との連携により正確な菌名同定につながった脳膿瘍の一症例

◎森田 絹代¹⁾、真智 俊彦²⁾
公立能登総合病院¹⁾、公立能登総合病院 内科²⁾

【症例】50代 男性

【主訴】視野障害 頭痛 ふらつき

【既往歴】十二指腸潰瘍穿孔

【現病歴】

半年ほど前から仕事の作業がうまくこなせない、視野がなんとなくおかしいなどの症状が出現。車を運転中、自損事故を起こしたことをきっかけに近医を受診。CT, MRIにて脳膿瘍または脳腫瘍が疑われ、鑑別および精査加療目的で当院を紹介受診。

【入院時現症】

(vital sign) 意識清明, 血圧 135/84 mmHg, 脈拍 90 回/分, 体温 37.7 °C, SpO2 96 % (room air)

(身体所見) 視野障害, 頭痛, ふらつき, 明らかな四肢の運動感覚障害なし

(血液検査所見) WBC 13010 / μ l, Hb 15.4 g/dl, Plt 34.6 万/ μ l, TP 7.3 g/dl, Alb 4.0 g/dl, T-Bil 1.1 mg/dl, AST 16 U/l, ALT 116 U/l, LDH 145 U/l, γ -GTP 517 U/l, BUN 13 mg/dl, Cr 0.82 mg/dl, CRP 1.05 mg/dl, Na 137 mmol/l, K 4.2 mmol/l, Cl 100 mmol/l

(血液培養) 未実施

(頭部造影 MRI) 右頭頂後頭葉に腫瘤病変あり, 周囲浮腫あり

(胸部造影 CT) 右肺下葉に多発散在性陰影を認めるも, 転移性脳腫瘍の原発巣となりそうな病変なし

(心電図) 異常なし

(経胸壁心エコー) 心内血栓なし, 疣贅なし

連絡先 0767-52-6611 (内線 3112)